

## 「計画通りに投資し続けること」の重要性

短期間で株価が下落すると、投資家によっては損失の拡大を恐れて株式から資金を引き揚げるケースがあります。

ティー・ロウ・プライスでは、長期的な資産形成という観点から見た場合にこのような行動が果たして適切かどうかを過去の株価の動きに基づき検証しました。

### サマリー

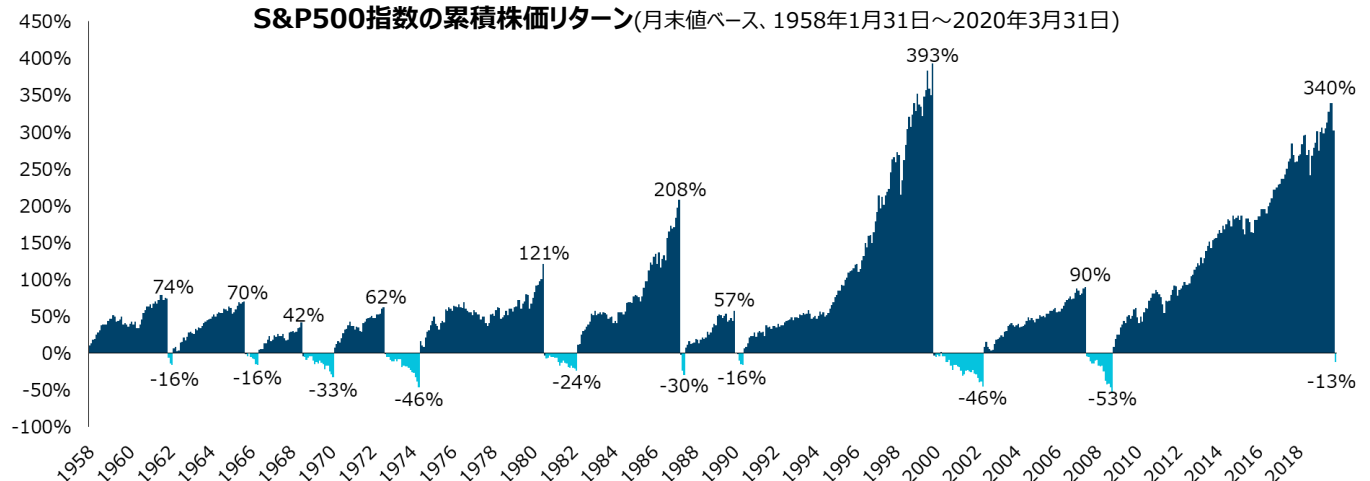
- ・ 2月後半から3月半ばにかけて、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的流行）を受けて世界的に株価は短期間で大幅に下落しました。
- ・ このような状況下では、更なる下落を恐れて、株式を現金化したいという心理が働きやすくなります。
- ・ 下落を受けて株式組入を引き下げ、ある程度市場が落ち着いたタイミングを見計らって再度株式に投資することが果たしてプラスに働くかを検証したところ、下落局面でも投資を続けた場合のほうが長期的により多くの資産が形成できたという結果になりました。
- ・ 急落局面での投資継続が反発局面でプラスに働く点、相場の底打ちタイミングを捉えることの難しさに鑑みると、市場の乱高下に惑わされることなく「計画通りに投資し続けること」が大切であると言えます。



### 株式の長期的な成長を享受するには「計画通りに投資し続けること」が重要

- 新型コロナウイルスが引き起こした現在の危機は、ショックの性質（パンデミック）、株価急落のスピード、社債などのクレジット市場からの流動性消失の速度、実体経済の突然の停止、経済対策の規模など、多くの点において前例のないものです。
- 今回のような株価急落局面では、パニックになり、更なる下落を恐れて株式を売って現金化したいという心理が働きます。しかしながら、**過去の実績では、株式の弱気相場の後には長期の強気相場が続いており、株式の長期的な成長を享受するには「計画通りに投資し続けること」が非常に重要**です。
- 計画通りに投資し続けるべきもう一つの理由は、**短期的な市場の動きを予測するのが難しい**からです。「今回のような急激な株安が起こるとはほとんどの投資家が予想していなかった。また、新型コロナウイルスや失業に関する悪材料が多い中での4月の株価反発も同様に予測困難だった」とティー・ロウ・プライスのシニア・ファイナンシャル・プランナーは述べています。

S&P500指数の累積株価リターン(月末値ベース、1958年1月31日～2020年3月31日)



過去の実績は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。

出所: スタンダード・アンド・プアーズ、ファクトセット・リサーチ・システムズのデータを使ってティー・ロウ・プライスが分析

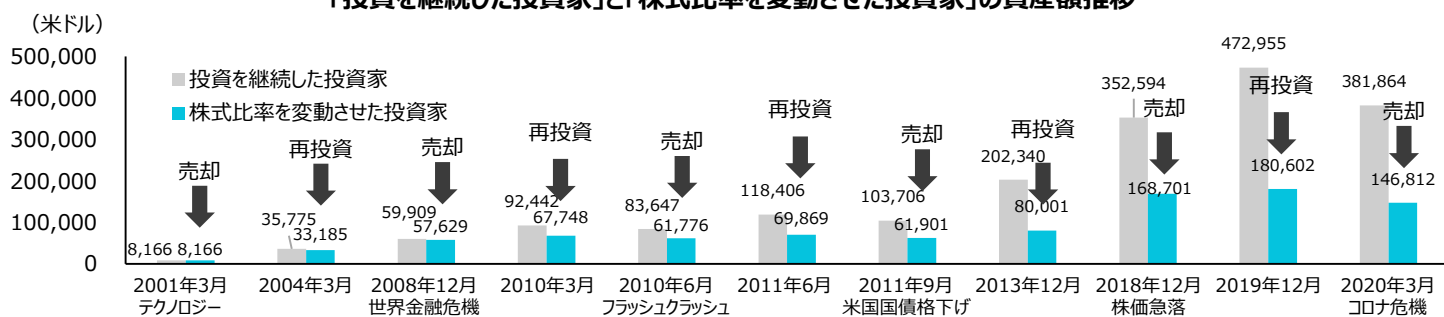
投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります）を投資対象としているため、お客さまの資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



## 株式の途中売却は結局高つく

- 下記のシミュレーションでは、2人の架空の投資家を想定しています。どちらの投資家も1999年12月末から四半期ごとに2,000米ドルを米国株式（S&P500指数）に投資したと仮定しています。
- 「投資を継続した投資家」は市場が乱高下しても冷静に投資戦略を堅持したのに対し、「株式比率を変動させた投資家」は、株式が1四半期に10%以上下落すると、その次の四半期の初日に資産残高と拠出金を現金化し、4四半期連続でリターンがプラスになると、その次の四半期の初日に株式への投資を再開しています。当シミュレーションではこうした行動が数々の市場サイクルを通じて繰り返されたと想定しました。
- この2つの例を見ると、**株安時は、どちらもポートフォリオの残高が減少しましたが、下落局面でも投資を行ったことで、「投資を継続した投資家」は市場の回復時に報われました。**2020年3月末時点の口座残高を見ると、「投資を継続した投資家」の口座残高は「株式比率を変動させた投資家」の2倍超に達しています。

「投資を継続した投資家」と「株式比率を変動させた投資家」の資産額推移



四半期ごとの投資額はそれぞれ2,000米ドル。四半期中は資金移動を行わず、四半期の騰落率に応じ、その次の四半期の初日に資金移動を行います。「株式比率を変動させた投資家」は、株式に投資していない期間は現金（四半期ごとの拠出金2,000米ドルを含む）を3ヵ月TB（米国国庫短期証券）に投資すると想定。なお、売買に要する受渡期間や手数料、税金等は考慮していません。上に示した株式のパフォーマンスは、S&P500指数のもので、配当等は考慮していません。チャートは説明のみが目的です。投資家はインデックスに直接投資することはできません。過去の実績は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。出所：ティー・ロウ・プライス、スタンダード・アンド・プアーズ。期間：1999年12月末～2020年3月末



## 株式売却と株式再投資のタイミングを計ろうとすることで失うものは大きい

- 過去の例を見ると、**局面にかかわらず「計画通りに投資し続けること」は長期的な資産形成に寄与**しています。
- 上記のシミュレーションで「株式比率を変動させた投資家」が成功するには、株式売却のタイミングと株式再投資のタイミングという2つの点で成功する必要がありますが、これは至難の業です。



タイミングを計ろうとする

→安値で売り、高値で買うことになりかねない。相場の底値を知らせるベルが鳴ることはない……



感情に流されて行動する

→すべてのリスクが払しょくされるのを待つと、株式に再投資するタイミングを逃し株価反発の恩恵を享受できない



ではどうすべきなのか？

→有望な投資機会に目を向け冷静に対応する長期投資の本質に立ち返る

投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

## 重要情報

本資料は一般的な情報の提供のみを目的としています。本資料に受託者としての投資アドバイスを含む助言の意味合いはなく、投資を検討される投資家の皆様には、投資判断の前に、法務上、財務上および税務上の独立したアドバイスを求めることが推奨されます。ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ・インクおよびその関係会社をはじめとするティー・ロウ・プライス・グループは、ティー・ロウ・プライスの運用商品およびサービスから収益を得ています。

過去の実績は、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。投資元本および投資から得られる利益は、減少することもあれば増加することもあります。償還額が投資元本を下回る可能性もあります。

記載の情報および意見は、信頼でき最新であると考えられる情報源から入手していますが、その情報源の正確性または網羅性を保証するものではありません。また、見通しが実現する保証はありません。本資料に記載される見解は、表紙に記載された日付時点のものであり、予告なく変更される可能性があります。これらの見解はティー・ロウ・プライス・アソシエイツ・インクおよびその関係会社の見解とは異なる場合があります。

いかなる状況においても、ティー・ロウ・プライスの同意なしに、本資料の全部または一部を複製または再配布することは禁止されます。

日本 - 日本において本資料は、ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社が発行します。著作権はティー・ロウ・プライスに帰属します。

「T. ROWE PRICE」、「INVEST WITH CONFIDENCE」、および大角羊（ビッグホーン・シープ）のデザインは、ティー・ロウ・プライス・グループ・インクの商標です。

ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社

〒100-6607 東京都千代田区丸の内1-9-2グラントウキョウサウスタワー7F

電話番号 03-6758-3820（代表）

金融商品取引業者関東財務局長(金商)第3043号

加入協会：一般社団法人 日本投資顧問業協会/一般社団法人 投資信託協会